

MITSUMORI

月刊 三森コーポレーション

2020 冬号

008

TAKE FREE



ピックアップ商品

ターボチャージャー

定番商品

セルモーター (スターター)

写真のモデルは、三森コーポレーションの営業の坂口(右)と山本(左)です

Mitsumori's Staff 中古部品マイスター

三森コーポレーションが誇る中古部品に関する プロフェッショナルスタッフをご紹介します



芦立 加奈
KANA ASHIDATE

主な業務: 総務

座右の銘: 人生一度きり **勤続年:** 23年

入社のきっかけ: だいた昔のことで記憶が定かではありませんが、自動車部品を販売している会社での知識だけで面接にきました。和気あいあいとした雰囲気がいいなあと思い、こういう職場で働きたいなあ強く願ったら叶いました。

趣味・特技: 読書が好きです。一日の終わりの就寝前に布団に入って読みながらいつの間にか寝ているというのが最高です。不思議な自然現象などに興味が湧きます。先日、早朝の散歩のとき、日の出を見ていたら、その反対側に虹が出ているのを見て朝からとてもありがたい気持ちになり、感動しました。

休日の過ごし方: テレビドラマをまとめて観たり、徒歩、自転車で散歩に出かけたりして過ごす事が多いです。滝を見てボーっとするのが大好きで、たまに行って何も考えずに水の流れを観察しています。周りの景色が季節によって姿が変わるのもいいですね。春と秋には必ず近所の山に登り自然を観察します。春は葉っぱが青くなってきたのを見るとウキウキしますし、小さい花を見つけると癒されます。秋は葉っぱが色づいて綺麗だなと思う反面、もうじき葉が落ちて寂しくなるな・と寂しい気持ちにもなります。

仕事で気をつけている事: 事務系の細かい仕事が多いので、落ち着いてきちんと処理をするよう心掛けています。

お客様へ: お客様との接点がありませんが、心をこめてお仕事しています!事務所にはいつもおりますので、近くにお越しの際は是非遊びに来てください。お待ちしております。

主な業務: 商品開発課 (商品管理、データ分析、溶接、塗装、商品発送)

座右の銘: 石橋を叩いて渡る **勤続年:** 14年

入社のきっかけ: 元々車が好きで、タイヤショップでアルバイトをしている時に、求人を募集している事を知り、面接を受けたことがきっかけでした。

趣味・特技: 趣味は釣りが好きで、海、川、湖など1年中色々所に行き、釣りをしています。これからのシーズンはワカサギ釣りに行きます。

休日の過ごし方: 基本的には子供たちと散歩したり、公園に遊びに行ったりしています。また子供の面倒を見なくてもよい時など、天気さえよければ釣りに行きます。

仕事で気をつけている事: お客様に迷惑をかけないように全ての工程でチェックをこまめに行い、お客様に安心をお届けできるよう日々の業務を行っております。

お客様へ: お客様にご満足いただける商品をお届け出来るように商品作りをしています。ぜひお問合せをお待ちしております。



濱田 太
FUTOSHI HAMADA



Mitsumori Corporation

株式会社 三森コーポレーション

〒983-0821 宮城県仙台市宮城野区岩切3丁目2番24号
部品のお問合せは: TEL 022-255-6564 FAX 022-396-1008
URL <http://www.3mori.co.jp>



ピックアップ商品

ターボチャージャー

ターボチャージャーの歴史は意外と古く1905年にスイス人が発明し特許を取得した事に始まります。実際に実用的に販売されたのは1925年に船舶用のディーゼルエンジンにターボが搭載されたのが最初で、自動車に搭載されたのはそれから37年後の1962年にGMがシボレーコルヴィアなどにオプションで販売したのが最初といわれています。

自動車関連の仕事をしているとピンときませんが、実は、船舶や建機や鉄道車両、大型発電機や小型航空機にまでターボチャージャーが搭載されているんですね。エンジンの回転数があまり変化しないエンジンにはターボラグもなく逆に最適なのだから。

日本では1979年に日産セドリック430に搭載されたL20ET(直列6気筒145PS)が初搭載で、その後数々のメーカーからターボ搭載モデルが発売されます。

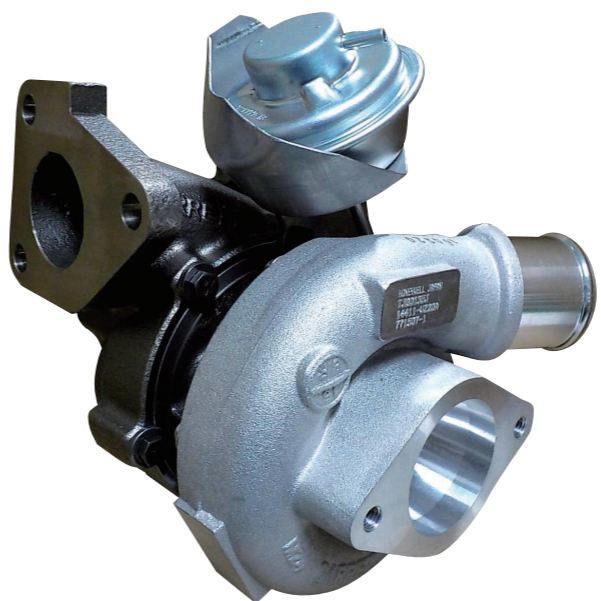
その中でも異色を放っていたのが1988年スーパーチャージャーとターボチャージャーのダブル過給機搭載の日産マーチRとマーチスーパーターボではないでしょうか。

排気量930ccにして110PSの高出力で、車両重量740kg、パワーウエイトレシオ約7.0とスポーツカーを凌ぐスペックなのに、新車の車両本体価格が120万〜130万円くらいって今では信じられない車でした。

昭和から平成の初めの頃は、スープラJZA70、RX7FC3S/FD3S、シティーターボII(AA)、やレガシー、ランサー、シャレード、ジェミニ、カルタスなどにもターボが搭載され、ターボ全盛期の時代でした。

排気量の大きい車両にはツインターボやシーケンシャルターボなども登場します。しかし、2002年の排ガス規制でツインターボが一時消滅した時期も。その後は、軽自動車に搭載される事が多くなり、1,000cc〜1,400cc位の小型エンジンとターボをうまく組み合わせたダウンサイジングターボエンジンもここ数年多くなっています。

そんなターボですが、1分間に20万回転以上で回る事もあり、排気ガスの熱が900度近くまで上昇する過酷な条件で機能しなければなりません。こまめなオイルメンテナンスを心掛けましょう。ターボチャージャーでお困りの際は、1年間10,000km、完全保証パック付きリビルターボがお勧めです。完全保証パックはミツモリだけ!!



セルモーター(スターターモーター)

内燃機関を搭載している車であればセルモーターは必ずついています。通勤に使っているのであれば最低1日2回、30日で60回、1年で730回、10年で7300回も『キュキュキューン』とエンジンをかけてくれる大変重要な部品です。

なんてったってこれが故障するとエンジンがかからなくなりますから。

セルモーターが無かった50年以上前は『クランク棒』なるものをクランクに差し込み人力で回していたのですが、さすがに今では普段見る事はなく、クランクカーミーティング等で見るといいでしょうか。

※「クランク棒って何?」と思う方は、YouTube等で確認下さい。

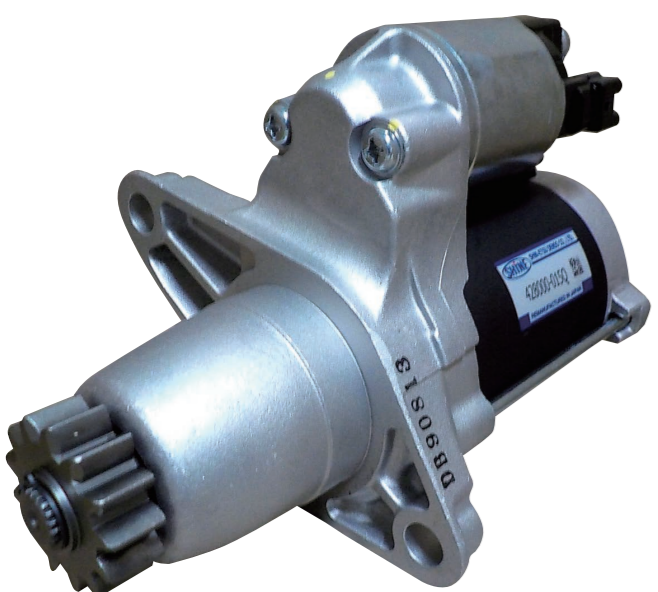
何気なく使っていますが、セルモーターって便利なんだな、と思つて頂けるかと思えます。

最近はいどリングストップ機能付きやHVなどの車も多いので、スターターモーターの負担が多くなつて故障も多くなるのかな?なんて思つていたら、メーカーによつてですが、HV車には元々スターターモーターが付いていない車種がほとんどなんで

すね。もちろんEVやFCVは最初から付いていません。

そのうちテレビの『チャンネル回して』に続き『セル回して』が死語になつてしまつかもかもしれません。

とはいえ、HV車はまだ少数、しばらくはスターターモーター付きの車も販売されますし、使用年数も考慮すると、あと10〜15年は必要とされるはず...! セルモーターの不具合でお困りの際は2年間40,000km完全保証パック付のミツモリコーポレーションへ是非お問合せ下さい。



定番商品





と、ひと息いかがですか？ Shall we take a break?

～3分で読める休憩コラム～

非常用電源として使われる電気自動車

台風15号19号による広域停電が長期化している千葉や宮城、福島で、電動車が活躍しています。自動車各社は、この災害に対し、約85台以上の電気自動車(EV)やプラグインハイブリッド車(PHV)、燃料電池車(FCV)を派遣。クルマに搭載している大容量電池が「非常用電源」となり、洗濯機や冷蔵庫、電子レンジといった家電に電気を供給したり、住民のスマートフォンの充電に使われたりしているそうです。

車から電源を取り出す方法は3通り。

まずは、シガーライターから電気を取る方法。携帯電話を充電するケーブルなどは市販されていますが、照明器具などを利用するためには、インバーターという機器が必要です。このインバーターは、カーショップでも購入できるものですので、気になる方はチェックしてみてくださいね。

次に、車内の100Vコンセントから電気を取る方法。今は、100VのACコンセントが標準装備されているクルマも増えてきました。多くの場合は、1500Wまで使えるそうで、電気ポットや電子レンジ、ホットプレート、ドライヤーの強風などまで使用OKとなります。HV車の場合は、エンジンをかけてアイドリング状態にして作動させることになります。

最後に、V2H機器を用いて電気を取る方法。V2Hとは、通常は家庭の電源から電気自動車やPHVを充電しているのに対し、必要な時には車側から家庭に電気を供給する仕組みのことを言います。こちらの利用にはまず、クルマ自体がその機能を備わっていることが前提となりますが、使用できる場合、1500Wから6000Wまで対応し、6000Wのものは60A契約の一戸建ての家一軒に電力を供給でき、エアコンやテレビも含め普段通りの生活ができてしまいます。

以上の車種をお持ちの方、または購入をお考えの方は、こういったものときの機能も、あらかじめ確認しておくとういかもしれませんね。

この電気自動車の災害時での使用は、これまでも度々注目されており、日本自動車連盟(JAF)では、EV、PHV、HV(ハイブリッド車)、一般的な車各車の蓄電で、一般家電がどの程度使えるのかを検証し、ホームページに公開しています。

また、自動車メーカーなどと自治体の間で、緊急時にEVを無償貸与する協定を結ぶ動きが加速化しており、自治体側でも、一般住民の所有するEV車を緊急時に提供してもらう登録制度を設けるなど、体制整備が進んでいるそうです。

電動車は、CO2排出が少なく燃費がよい環境車として普及し続けていますが、同時に、自然災害の多い日本において「走る蓄電池」として活躍を見せることで、ただの移動手段ではない、新しい価値を提供してくれているんですね。

災害時の備えのひとつに、「自家用車による備え」の選択肢もあるということ、是非知っておいていただければと思います。

